



駒岡小学校だより

11月号

支・競・讃 + 学「あい」

校長 松本 稔

平成28年度の秋季運動会が10月22日(土)に無事に実施することができました。10月の半ばを過ぎてからは気温が急に下がり始め、少々肌寒い中でしたが、体を動かすには丁度良い条件で実施することができました。

例年のように、前日準備では後援会とPTAの方々にお手伝いいただき4時前にはほぼすべての準備が終わり、当日の早朝からは、駒っこクラブ(お父さんの会)の方々、保護者席の管理をはじめ運動会の円滑な進行のために多大なお力をいただきました。改めてお礼を申し上げます。ありがとうございました。

毎年運動会を実施した後の教職員の振り返りをする中で、児童の運動会での係活動のあり方について議論が上がっていました。特に高学年にとっては、自分が運動会の中でどのような係として参加するかは、競技や演技などと同様な重みがあります。今年度から運動会に参加する児童の思いを大切にされた係活動を考え、昨年度まで委員会活動の組織をもとに決めていた係活動を、運動会の係活動ごとに人数を決めて募集することにしました。子どもたちのモチベーションを保つ意味では効果的で実際の動きもよかったと思われます。

今年は終了時刻が約30分の遅れが見られました。教職員の係担当者ごとの連携や児童の係活動の動きをより洗練させて、振り返りを生かした運営ができればと考えています。

さて今回の運動会にはいくつかのドラマがありました。数年前には近隣の学校での運動会が、同点で引き分けということがあったようですが、今年の駒岡小学校でも、劇的な大逆転劇の結果、赤組924点、白組940点で白組の優勝でした。実は最後の大玉送りを行うまでは赤組が894点、白組880点の14点差で勝っていました。ところが白組が1回戦、2回戦ともに勝利し、白組に60点、赤組に30点が入り、大逆転が起こったわけです。

もし、1回戦に白組が勝ち、二回戦に赤組が勝ち、3回戦まで行ったとすると、3回戦目に勝った組が優勝ということだったわけです。3回戦で赤が勝てば29点差で赤組の優勝。白組が勝った場合には、たった1点差で白組の優勝ということになったかもしれません。

さらにこの逆転劇の裏側には、運動会前日に行った大玉送り集会(全校練習)の勝敗が存在します。その勝敗は圧倒的な赤組の勝利でした。

1年生から3年生まで地面を転がして送り、4年生以上は頭の上に持ち上げて大玉を送りますが、白組の大玉を送る様子は、低学年ではなかなか進まず、高学年では頭の上にあげた大玉を何度も地面に落とす様子を見る限り、翌日の運動会本番の勝利はだれが予想していたでしょう。

白組の様子は一転し、運動会本番の低学年では滞ることなく実にスムーズに、高学年も1度も落とさずに上手に運ぶ様子を目の当たりにし驚きました。

今回の運動会のスローガンのキーワード「支えあう」「競いあう」「讃えあう」に見合った活動が至る所に見られました。係の活動の様子、正々堂々と競う様子、お互いの演技に惜しみない拍手をする様子などなど、本番だけではなく、事前の係活動や練習をしているときから見られましたが、キーワードを一つ加えるとすると、「学びあい」と感じました。「失敗は成功の元」とも言いますが、前日の白組の大玉送りの失敗から白組は学び、運動会の勝利を引き寄せたのではないのでしょうか。ぎりぎりまで本当にかんばった赤組と、学び勝ち取った白組に大きな拍手を送ります。

運動会での暖かい声援とご協力に心から感謝申し上げます。駒岡らしい日本一の運動会に今後ともご支援をよろしく願っています。

